

平成17年度病害虫発生予察 予報第7号

長崎県病害虫防除所長

【気象（平成17年10月14日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

特に注意を要する事項として、九州北部地方では気温の高い状態が続いています。この状態は期間の前半を中心に続く見込みです。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目、2週目はいずれも高く、3～4週目は平年並か高いでしょう。

要素	要素別確率		
	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

\* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
大豆	吸実性カメムシ類	やや多	やや多
ばれいしょ	アブラムシ類 ジャガイモガ ヨトウムシ類（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）、 オオタバコガ	やや少 やや少 並	やや少 やや少 並
キャベツ	モンシロチョウ コナガ タマナギンウワバ ハスモンヨトウ	並 やや少 やや多 やや少	並 やや少 やや多 やや少
にんじん	うどんこ病 黒葉枯病 シロイチモジヨトウ	やや多 並 やや多	やや多 並 やや多
いちご	炭疽病 うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	やや多 並 並 やや多	やや多 並 並 やや多
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ カメムシ類 (注意報第6号を継続)	やや少 やや少 やや多	並 並 多
果樹共通	クワゴマダラヒトリ	やや多	やや多

【大豆】 ( )内は平年値 [以下同じ]

1. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は7.3%(3.4%)、株当たり虫数は0.4頭(0.1頭)、発生圃場率は41.7%(41.0%)であった。

イ 10月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は36.0%(21.7%)、株当たり虫数は0.4頭(0.4頭)であった。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

収穫時期が近いので薬剤散布にあたっては使用基準を遵守する。

【ばれいしょ】

1. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生は認められなかった(寄生株率0.9%、発生圃場率14.0%)。

2. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害は認められなかった(被害株率0.4%、発生圃場率12.6%)。

3. ヨトウムシ類(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ)、オオタバコガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(20筆)の結果、被害株率は3.9%(7.6%)、発生圃場率は40.0%(55.3%)であった。

イ 9月下旬の巡回調査(17筆)では、被害株率は13.2%(3.5%)、発生圃場率は76.5%(28.5%)と多かった。

【キャベツ】 キャベツの( )は平成11~16年の6ヶ年の平均値

1. モンシロチョウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.3%(0.2%)、発生圃場率は8.3%(2.1%)であった。

2. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.0%(1.9%)、発生圃場率は16.7%(30.6%)であった。

### 3. タマナギンウワバ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は1.0%(0.5%)、発生圃場率は16.7%(10.3%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

幼虫は、中葉や下葉の葉うらにひそんで食害するので、薬剤が十分に下葉にかかるようにする。

### 4. ハスモンヨトウ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は0.7%(3.0%)、発生圃場率は8.3%(25.0%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

【にんじん】 にんじんの( )は平成7年及び11～16年の7ヶ年の平均値

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発病株率は2.9%(1.1%)、発生圃場率は22.2%(1.9%)であった。

### 2. 黒葉枯病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(9筆)の結果、発生は認められなかった(発病株率0.0%、発生圃場率1.9%)。

### 3. シロイチモジヨトウ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(9筆)の結果、寄生株率は1.3%(0.2%)、発生圃場率は11.1%(3.7%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期のうちに防除する。

イ 薬剤散布の際には、使用基準を遵守する。

【いちご】

### 1. 炭疽病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は18.5%(7.4%)であった。

イ 病害虫防除員によると一部地域の圃場で多発生している。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 萎凋・枯死株は見つけ次第、除去し本圃内に放置しない。
- イ 薬剤散布の際には、使用基準を遵守する。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生は認められなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.5%)。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.7%(1.8%)、発生圃場率は33.3%(16.2%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率2.2%(2.2%)、発生圃場率は25.9%(11.1%)であった。

イ 9月下旬の巡回調査(27筆)では、寄生株率5.2%(1.6%)、発生圃場率は25.9%(9.0%)と多かった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発生を認めたら初期のうちに徹底した防除を行う。
- イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が落ちるので、葉裏まで十分に散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

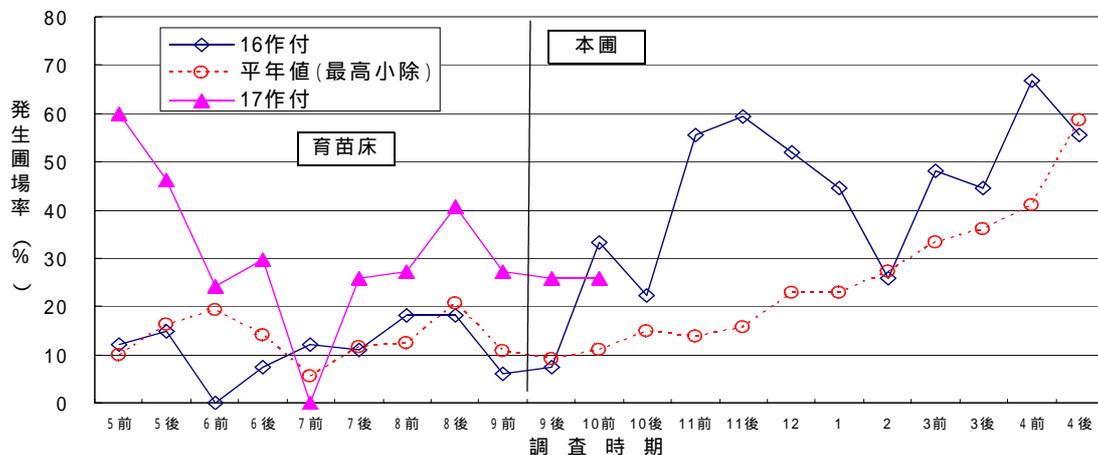


図1 ハダニ類発生圃場率の推移(巡回調査)

【かんきつ】

1. 青かび病、緑かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(39筆調査)の結果、発病果は認められなかった(発病果率0.1%、発生圃場率5.7%)。

イ 7月以降、気温が平年より高めに推移している。

ウ 果実吸蛾類による被害果が多く見られる。

## 2. ミカンハダニ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

ア 10月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は4.3%(12.7%)、発生圃場率38.5%(51.6%)であった。

イ 向こう1ヶ月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

## 3. カメムシ類

平成17年9月26日付け、病害虫発生予察 注意報第6号を継続

### (1) 予報内容

発生程度 多

### (2) 予報の根拠

ア 諫早市のフェロモントラップの誘殺量は、10月1半旬以降増加し、平年よりやや多く推移している(図1)。また、多良見町及び有家町でも10月1半旬以降に誘殺量が増加している(図2)。

イ 9月下旬のヒノキ口針鞘数調査の結果から、既にかんきつ園への飛来があっているか飛来が間近に迫っている地域が多いと考えられる。

ウ 病害虫防除員の報告によると大村市、諫早市長田、多良見町で発生が多く、集中加害がみられる園も見られる。

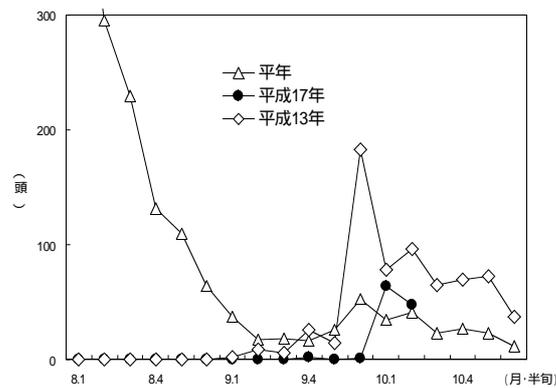


図1 チャバネ・ツヤオカムシの誘殺状況(諫早:黄色コガネコール)  
\* 平年値は平成7～16年の平均  
\* 平成13年は本年と発生状況が似ている

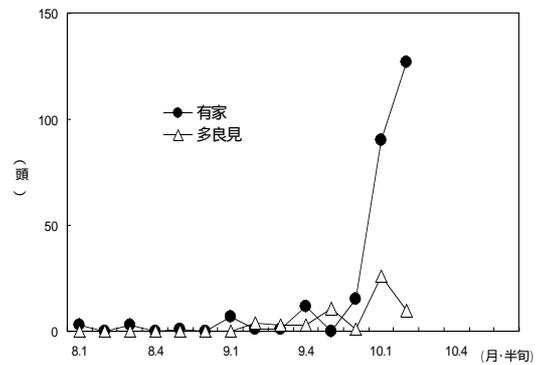


図2 チャバネ・ツヤオカムシの誘殺状況(多良見町,有家町:黄色コガネコール)

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来時期や飛来量は園によって差があるので、発生状況に十分に注意し、早期発見、早期防除に努める。特に着色が早い園は集中的に加害される可能性がある。

イ カメムシ類は夜間に果樹園での密度が高まるので防除は夕方または早朝に行う。

ウ 夜温が下がると、日中も果樹園へ飛来する。

エ 極早生温州では既に収穫作業が行われており、早生温州は収穫時期が近づいているので、薬剤散布の際には使用基準を遵守する。

## 【果樹共通】

### クワゴマダラヒトリ

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

10月上旬の巡回調査の結果、かんきつ調査圃場周辺のアカメガシワで幼虫網が平年より多く認められた。

### (3) 防除上注意すべき事項

本虫は、春季に果樹園へ移動し新梢を加害するが、今の時期にかんきつ園から50m以内の産卵樹を伐採するか、卵塊、幼虫網を除去し処分すると春季の発生を抑えることができる。